

室町の笑ひ

特別編

もののけ狂言(類)シリーズ第一弾

次回公演

第二弾
新作狂言
「そろり」
ほか
12月11日(日)
14時~

もののけ狂言(類)シリーズ

うゆうぐうのつかい

クトゥールー狂言

龍宮之使

作……………浅尾典彦
 演出……………安東 元
 漁師(アガミ)……………安東 元
 乙姫(クトゥールー)……………安東睦郎
 役人(オリス)……………山田師久

■基調講演

「もののけ狂言シリーズ」
クトゥールフ神話について
浅尾典彦

小名狂言

文荷

ふみにない

太郎冠者……………安東 元
 次郎冠者……………安東睦郎
 主人……………山田師久



2022年
10月22日(土)

舞台：14時開演(13時30分開場)

映画：2回上映 ①11時30分~13時30分
②16時~18時

堺能楽会館(ダイトクビル)

〒590-0974 堺市堺区大浜北町2丁4-7-100

南海本線「堺駅」下車、南口から南へ徒歩7分

大人：2,000円(映画と狂言のセット料金：3,000円)

学生(高校生・大学生)：1,000円

(映画と狂言のセット料金：1,500円)

ご予約・問い合わせ 古語美(安東)

メール：kogomi.kyogen@gmail.com

TEL 090-3990-1122



映画『龍宮之使』特別上映会



Necronomicon: evocative magic

(2019年・英語字幕入/107分)

日本初のクトゥールー映画。

新作狂言の原作であり、

大人のための幻想奇譚。

ダイトクビル2階特設会場にて

©夢人塔2017-2019

<http://ryugu.wp.xdomain.jp/>



「室町の笑ひ」(ごあいさつ)

狂言師 安東 元

本邦初となるクトゥルーの世界観を描いた映画「龍宮之使」を、中世の堺を舞台に新作狂言としてお披露目させていただく事ができ、大変光栄に存じます。人間の本性に棲まう二面性を、クトゥルーという悍まじげな邪神を登場させて描く西洋の幻想世界と、人間の愚かさや卑しさを、笑いをういて演劇的なヒューマンドラマとして描き出す狂言、その東西問わぬ共通点を精一杯能舞台で表現したいと思います。



「もののけ狂言(類)」の愉しみ

脚本・原作 浅尾典彦(夢人塔)

古典芸能の中には、今の幻想文学にもあい通ずる面白さが多くあります。もっとたくさんの方に狂言を楽しんでいただきたい。新しい狂言の世界を広げたい。今回、あえてファンタジックな題材を中心にして、新作で綴る「もののけ狂言(類)」シリーズというジャンルを狂言師の安東元さんと立ち上げました。これまでにない"不思議な世界"の物語を、狂言ならでわの素晴らしい身体表現と直接話法で舞台を繰り広げます。今回は、その第一弾「クトゥルー狂言」!! いざ、"幻想が織りなす悠久(ゆうきゅう)の彼方へ"とご一緒にまいりましょう。

新作・もののけ狂言

クトゥルー狂言『龍宮之使』(りゅうぐうのつかい)

原作・脚本 …………… 浅尾典彦
脚色・演出 …………… 安東 元
漁師(アガミ) …………… 安東 元
乙姫(クトゥルー) …… 安東睦郎
役人(オリス) …………… 山田師久
後見 …………… 山村貴司



"人の心の奥底にある愚かさ"をテーマに、2019年に完成した幻想映画『龍宮之使』を元に、作者自身が本公演の舞台に合わせて新作狂言にした。舞台を堺市大浜とし、登場人物も二人に直している。漁師が、海中より現れた乙姫のような「龍宮の使い」に願いの叶う「玉手箱」を貰う。漁師はその力で富を得るが、欲深い役人のオリスに「玉手箱」を騙し取られてしまう。必死で取り返そうとする漁師、騒ぎを聞きつけた「龍宮の使い」も再び現れ「玉手箱」を返せと迫る。

※基調講演「もののけ狂言シリーズ」クトゥルー神話について 浅尾典彦

「もののけ狂言(類)」シリーズの面白さや意味、今後の可能性、そして今回の題材になった"クトゥルー神話"についても解説いたします。

狂言『文荷』(ふみにない)

太郎冠者 …………… 安東 元
次郎冠者 …………… 安東睦郎
主人 …………… 山田師久

主人に左近三郎宛の恋文を持たされた太郎冠者と次郎冠者。恋の情が募って堪え難いことを重荷にたとえ、文を竹の棒の中程にぶら下げて担いで行くが、余りにも重いので何が書いてあるか読もうと争い出し、遂には大切な文を破ってしまう。本作品は世阿弥作能「恋重荷」のパロディとなっており、中で「恋重荷」の小唄の一節を謡いながら舞う場面は、最大の見せ場とも言える。



映画『龍宮之使(りゅうぐうのつかい)』(2019年)

Necronomicon: evocative magic

(英語字幕入・107分・R15+相当)

原案・脚本・製作: 浅尾典彦/監督・撮影・編集: 長谷川光徳
出演: 白川明彦、竹房敦司、浅尾典彦、KAORIN Miwa、
上田宜照(能楽観世流シテ方)、堀内正美(特別出演)ほか

クトゥルー狂言『龍宮之使』の原本となった幻想映画。太平洋戦争の直前、関西の架空の街「印須磨(いんすま)」で欲に駆られた三人の愚か者たちが、「根暗之巫女詔(ネクロノミコン)」という魔道書の入った玉手箱を奪い合う。本当の恐ろしさを知りもせず……。アメリカの作家 H.P. ラヴクラフトの放つ幻想怪奇譚「クトゥルー神話」を日本独自の視点で世界で初めて映画化!! 人間の奥底にある業(ごう)を描いた、哀しみのファンタジー作品。

※ご注意 本作は"大人のための寓話"として製作されており一部、子供には不適切な表現(R15+相当)も含まれます。©夢人塔 2017-2019 <http://mujintou.jp/ryugu/>

安東元(あんどうげん)

1970年、大蔵流狂言師 安東伸元の次男として生まれる。観世流シテ方の祖父 故 安東竹次郎より謡曲の手解きを受け、小学4年生で能『三井寺』の子方で初舞台。永年、能・狂言と乖離していたが、他ジャンルと狂言のコラボ公演をはじめとするオーガナイズ・プロデュース及び事務局を経て、2011年より舞台人としての玄人稽古を始め、狂言『口真似』で狂言初舞台。2018年より民族楽器や朗読を演出に取り入れたコラボレート狂言公演を開始、2021年わかやま国民文化祭にて構本市のご当地狂言「高野詣」を創作し好評を得る。ワールドクルーズ洋上演や米国ボストン公演への参加。近年は、台湾・成功大学他で狂言ワークショップを行うなど、様々な年代にアプローチし狂言の魅力を伝える活動を国内外で行なう。

古語美 <https://kyogen-kogomi.hp.peraichi.com/main>

浅尾典彦(あさおのりひこ)

作家、メディアライター、イベントプランナー、専門学校講師、日本SF作家クラブ会員。サブカルチャーで関西を活性化させる文化人。FantasticMessenger 夢人塔(むじんとう)代表として45年以上にわたり、新聞、雑誌、テレビ・ラジオ、ネット、映画、市民講座などを通じて多面的に活動。『幻想映画ヒロイン大図鑑』『アリス・イン・クラシックス』(青心社)など著書も多い。狂言の脚本は今回初挑戦となる。阪急豊中駅前で半世紀開業する「アサオ整骨院」院長としての顔もある。

©夢人塔ページ <http://mujintou.jp/>

■日時 2022年10月22日(土) 狂言の舞台は14時開演(13時30分開場)
映画は①11時30分~13時30分 ②16時~18時 2回

■会場 堺能楽会館
〒590-0974 堺市堺区大浜北町3丁4-7-100 ダイタクビル

■アクセス 南海本線「堺駅」下車、南口から南へ徒歩7分

■入場料 大人:2,000円(映画と狂言のセット料金:3,000円)
学生(高校生・大学生):1,000円(映画と狂言のセット料金:1,500円)

■イベントご予約・問い合わせ kogomi.kyogen@gmail.com[古語美(安東)]

TEL:090-3990-1122

